

第6次産業への取り組み-複数システムの連携による価値構築-

日 時： 2015 年 11 月 7 日（土） 13 時 00 分-17 時 00 分
 会 場： 日本大学・経済学部 7 号館 9F 7091 室（最寄り駅：JR 水道橋駅から徒歩約 5 分）
 主 催： 横幹技術協議会、横幹連合、日本経営工学会西関東支部
 参 加 費： 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料、
 その他 2,000 円（資料代含む）。当日資料代：1,000 円（希望者のみ）
 参加申込：【事前登録】 オンライン申込 (http://www.trasti.jp/forum/forum46_kyg.html)

【企画趣旨】

最近、TPP 問題がマスコミで取り上げられており、日本農業への不安と期待が議論されている。また、この時流を受けて農林水産省に於いても「農山漁村の 6 次産業化」と称して、2 次産業・3 次産業を取り込み、複数の関連したシステムを活用して有機的・総合的結合を図り、1 次産業を振興して地域経済の再生を企画している。メーカーからは産業設備の転用や農業生産装置の提供といった複数システムの連携で、農水産業を含んだ新たな価値が構築される社会の建設への貢献となる機会と思われる。そこで、閉塞感のある日本の経済状況を打ち破るために、日本経営工学会西関東支部では、研究部会を立ち上げ第 6 次産業について経営工学の視点で検討してきた。

今回のフォーラムでは、6 次産業化への様々なトピックを取り上げて、各方面から専門家を講師として招き現状の課題の議論を深めていく講演会を企画するものである。なお今回は日本経営工学会西関東支部と共催とする。

【プログラム】

	(敬称略) 総合司会:藤川 裕晃(東京理科大学)
13:00-13:10 開会あいさつ	桑原洋 (横幹技術協議会会長)
13:10-14:30 ◆ 講演 1 「第 6 次産業の課題と複数システム連携による価値構築」	藤川 裕晃 (東京理科大学)
◆ 講演 2 「日本の農業の現状と提案〜コメが人類を救う」	尾ノ井 憲三(元ヤンマー(株))
14:30-15:00 休 憩	
15:00-16:55 ◆ 講演 3 「第 6 次産業と ICT 活用」	堀川 三好 (岩手県立大学)
◆ 講演 4 「農産物の流通の在り方」	野見山 敏雄 (東京農工大学)
◆ 講演 5 「植物工場のエンジニアリング」	山中 宏夫 (大成建設(株))
16:55-17:00 閉会あいさつ	出口 光一郎 (横幹連合 会長)

横 幹 技 術 フォーラム

第 6 次 産 業 へ の 取 り 組 み - 複 数 シ ス テ ム の 連 携 に よ る 価 値 構 築 -

2015 年 11 月 7 日 (土) 13 時 00 分 - 17 時 00 分

【 講 演 要 旨 】

(敬称略)

講演 1

第 6 次 産 業 の 課 題 と 複 数 シ ス テ ム 連 携 に よ る 価 値 構 築

◆ 藤川 裕晃 (東京理科大学 経営学部 教授)

第 6 次産業は、第 1 次産業である農業に第 2 次産業の工業や第 3 次産業の商業の技術を活用し、海外からの安価な農産品に対抗できる様に強化しようというアイデアである。つまり、第 6 次産業は農業に工業生産のノウハウを加えて、更にサプライチェーン管理手法を連携させて全体最適化を目指す価値構築過程とも言える。経営工学でも取り組みが始まった第 6 次産業の研究を 2 つ取り上げ簡単に報告すると共に今後の取り組み展開についても触れる。

講演 2

日本の農業の現状と提案～コメが日本を救う

◆ 尾ノ井 憲三 (元ヤンマー(株) 調達部長)

日本の農業は政府の減反政策のもとで米の収量が年々減少した。食料自給率が先進国でも最低レベルにまで下がった。また、農家の収入も年金がないと成立ない状況に追い込まれている。そこで、日本の主食であるコメを取り上げ、アメリカや中国と比べて米生産の収支を考察し、今後日本農業が市場性を回復するための政府の支援策への提言をする。

講演 3

第 6 次 産 業 と ICT 活 用

◆ 堀川 三好 (岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 准教授)

第 6 次産業での業務改善のツールとしての ICT にスポットを当てて、農産物地直売所における在庫管理方法に ICT を活用した事例、協調型サプライチェーンでの業務改善例、酪農の事例などについて説明する。そして、今後の ICT の第 6 次産業での活用の可能性についても言及する。

講演 4

農産物の流通の在りかた

◆ 野見山 敏雄 (東京農工大学 農学部 教授)

TPP 交渉が成立すると安い海外農産物が輸入され、農家がなくなってしまうと言われている。また、最近「食の安全・安心」の重要性が叫ばれる様になり、卸売市場経由での取引の比率が減少する一方、ネットで農家から直接宅配するといった配送システムが盛んになって来た。また、地産地消、ネットワーク型産直、農産物の産地形成などの産直流通の解明を通して農産物流通の現状と今後の展望について言及する。

講演 5

植物工場のエンジニアリング

◆ 山中 宏夫 (大成建設株式会社 エンジニアリング本部 シニアエンジニア)

農業生産の工業化と言えば植物工場が挙げられる。ビジネスが生産法人を設立して植物工場での農業生産に参入が相次いでいる。しかし、実情はそんなに簡単ではない。LED 照明、自動種まき機、溶液制御機構などのツールを如何に利益の出る事業にエンジニアリングできるかを概説する。建設会社のエンジニアリング部門での植物工場のいくつかのプロジェクト経験をもとに報告する。

< 第 46 回横幹技術フォーラム 参加申込書 >

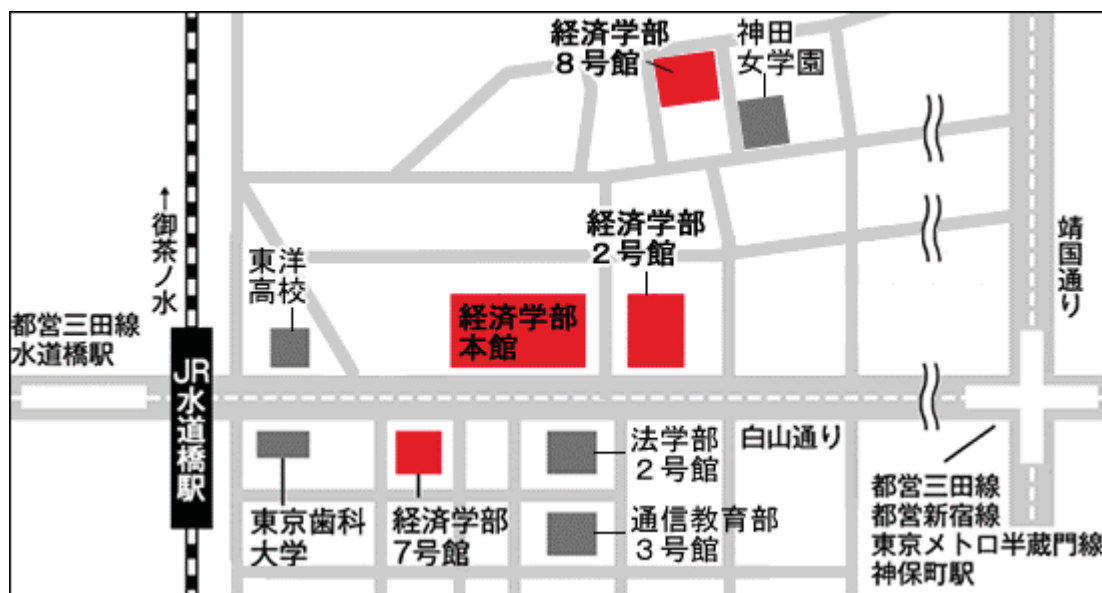
1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

交通案内



以上